

大正五年八月一日發行

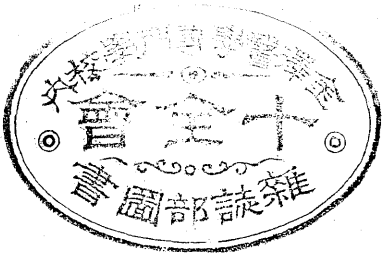
十全會雜誌

卷一十二第

號八第

(號七十二百第)

九月四日



全澤農學專門學校十全會

シ依テ第三號血清ヲ午前一回午後二回シ翌二十一日午前一回注射セシニ第三日ニ至リ局所症狀去リ體温下降シ第五日ニ至リ全治セリ。

第三例 平〇ソ〇 女 料理商 三歲

大正四年十一月十三日午後六時突然惡寒戰慄ヲ以テ熱發シ體温三十九度中度ノ腦症狀ヲ發ス患者ハ骨テ右耳翼濕疹ニ罹リシガ常ニ搔抓ヲナスノ慣習アリ然ルニ其周圍顳顬部上眼瞼前額ノ一部下部ハ頰部ニ仙迷ニ達スル迄發赤腫脹疼痛甚シク中度ノ痙攣ヲ發ス依テ直ニ第三號血清一筒ヲ注射シ翌朝一筒ヲ注射セシニ第三日ニ至リ全治セリ。

如上ノ治驗ハ余ガ僅々三例ニ過ギスト雖モ是ヲ綜合スルニ確ニ有効ナリト認ム其結論左ノ如シ。

一、實扶的里血清ハ耳鼻領域ニ於ケル丹毒治療ニ應用シテ有効ト認ム。

一、顏面丹毒殊ニ早期ニ於テ奏効アリ。

一、血清ハ第三號實扶的里血清(一五〇〇免疫單位)ヲ反復使用スルニアリ。

雜 錄

●金澤外科皮膚科集談會第十二回例會(十二日)

臭素結節疹ニ就テ

大城善太郎

原因及ビ病理ニ就テ今日マデ報告サレタル著者ノ所見ヲ述ベ次デ金澤病院皮膚科(主任土肥博士)ニ於テ實驗セル臭素結節疹ノ一例ヲ報告シテ曰ク、患者ハ南某女十一月生マレノ二年ノ少女ニシテ母乳營養ニテ生來健全ナリシモ本年一月初旬内科的疾患ニテ醫治ヲ受ケ内服ヲ用ヒシ連用セルヲ知り臭素結節疹ト確定セルモノナリ内用停止後二週間ヲ經ルモ尙ホ増殖セル傾向アリキト述ベ左顳顬部ニ南京豆大ノモノ五個簇生セルモノヲ寫眞ニテ供覽セリ。

「オイヌホイヂスミス」ノ一例

内藤 賴一

余ハ金澤病院皮膚科(主任土肥博士)ニ於テ左ノ一例ヲ實驗セリ。既往症及家族歴、患者ハ團野某男二十歲金物商ニシテ熟胎シテ生レ母乳ヲ以テ育ツ幼時肉體及心靈上共ニ異常ナク著患ヲ憂ヘシコトモナシ。遊戯モ女性的ノモノヲ特ニ好メル傾向ナシ、八歳ニシテ小學校ニ入學シ成績モ中等ニシテ落第セシコトナシ高等小學第二年マデ通學修了セリ、長ズルニ及ビテ時々已レノ生殖器ノ發育惡シキニ氣付キシモ常ニ羞恥ノ爲メニ醫師ノ診ヲ受ケザリキ。

家族歴トシテハ父母共ニ健存。父ハ六十二歳ニシテ酒豪家ニ非ラズ母ハ五十三歳ニシテ著患ヲ知ラズ精神の遺傳トシテハ別ニ認ムベキモノナシ。同

胞四人第一ハ三十歳ノ女ニシテ健、四人ノ子ヲ舉ゲル男子ノミ共ニ健全ナリ第二ハ二十七歳ノ女ニシテ健、第三ハ二十五歳ノ男子ニシテ健、第四ハ本患者ナリ。

現症患者身長五尺一寸餘年齡ニ比シテ稍々矮小ノ感アリ體重ハ十三貫百五十匁アリ皮膚ハ纖弱ニシテ稍々蒼白觸ルレバ軟カク女子ノ肌ニ似タリ最も顯著ナルハ皮下脂肪組織ノ異常ノ發育及其分布狀態ニシテ腹部陰阜ニ於テ最モ著シク乳房ハ女子ノ十三四歳位ニシテ乳嚙モ男子ノソレト異ナリ破瓜期前後ノ處女ニ見ルガ如シ觸ルレバ軟カク脂肪ニ富ム筋肉ハ中等度ニ發育シ顔面ニ於テハ兎唇手術後ノ癍痕アリ鼻耳眼口腔ニモ異常無ク唯扁桃腺ノ肥大ヲ見ルノミ、頸モ女子ニ於テ見ルガ如ク甲状軟骨ハ發育惡シク所謂アダム氏結節ヲ見ズ肺、心臟ニモ異常ヲ認メズ其他頭髮ハ普通見ル如ク黒色ニシテ密生ス然レモ腋窩乳腺部陰部ニハ硬毛ヲ全ク缺ク而シテ著シキ發育不全ハ生殖機關ニアリ睾丸ハ不垂シテ正シク陰囊中ニ在リ陰囊及睾丸ノ大サハ七八歳ノ兒童ノ如ク睾丸ノ長徑ハ僅ニ一・五仙迷ニシテ硬度ハ纖維性軟度ナリ陰莖ノ長サハ二・五仙迷周圍ハ四・七仙迷アリ時シテ稀レニ放尿時ニ輕キ勃起スルコトアレハ性慾發動ハ殆ドナシト。陰阜ハ婦人ノ如クヨク發育シ硬毛ハ更ニナシ攝護腺ハ直腸ヨリ觸ル、ニ著シク發育不良ニシテ小ナリ又淋巴腺ノ腫脹ナク膀胱直腸ノ機能障礙ナシ其他尿大便血液検査エツキス線検査内分泌検査等ハ其ノ機ヲ得ザリキ。

以上ノ症狀ヨリ診斷スルニ其生殖器官發育不全及機能不全並ニ皮下脂肪組織ノ普汎性ナルトハコレヲ脂肪增多性生殖腺萎縮症(アフリヨールツヒ氏一九〇一年)ト見做スベキモ若シ然リトスレバ腦下垂体ノ疾病殊ニ新生物ナラサルベカラズ然ル時ハ下垂体ハ視神經交叉ノ直後ニアリテ「トルコ」鞍ヲ跨リ莖ヲ以テ第三腦室ノ下面ニ存在スルモノナレバ其處ニ腦腫瘍一般症狀(頭痛、嘔吐、嗜眠等)ノ他ニ該腫瘍ノ局所症狀(例ヘバ半盲症或ハ黑内障ノ如キ)無カラサルベカラズ然ルニ本患者ニ於テハ毫モカ、ル症狀ヲ認メ

ズ這般ノ理由ニヨリ本患者ハフワルタ氏ノ所謂生殖腺別出様型(其生殖腺ノ原發的不完全ナルモノ)ナラント信ズ仍ツテ茲ニ「オイヌホイダス」ノ一例トシテ報告スル次第ナリ。

癩ノ「チアノクプール」療法

内 藤 賴 一

第一例 伊吹某女 五十歳 斑紋癩 昨年十月下旬ヨリ顔面頤部右前膊背部右膝關節部兩足部ニ赤褐色ノ皮膚ヨリ稍々隆起セル類圓形或ハ橢圓形ノ皮膚浸潤ヲ有スル斑紋ヲ生ジ該部ハ知覺麻痺アリ神經肥厚ハ大耳神經尺骨神經共ニナシ尙顔面神經麻痺モ伴ハズ。

古賀氏液ノ靜脈内注射ハ昨年十二月廿五日ニ始マリ凡ソ一週一回本月十三日マデニ十五回注射總量一〇立方仙迷ニ及ベリ三四回ノ注射後斑紋ノ浸潤潮紅ハ稍減少シ始メ十回注射マデハ漸次消褪セシモ全ク消滅ニ至ラズ知覺麻痺ニ對シテハ注射後ノ輕快ヲ認メズ。

第二例 佐々木某女 十二歳 斑紋癩 一昨年九月ヨリ顔面四肢ニ類圓形ノ數個ノ斑紋ヲ生ジ該斑紋ハ赤褐色ヲ呈シ浸潤ヲ有シ皮膚面ヨリ隆起ス稀レニ薄キ落屑ヲ蒙レルモノアリ神經肥厚ハ認メズ知覺麻痺ハ斑紋部ニ於テハ在上唇ニ少シク運動障礙アリ。

注射ハ昨年十一月十五日ヨリ三月十三日迄總數十五回總量八・五立方仙迷ニシテ第四回注射後ニ於テ顔面ノ浸潤潮紅少シク吸收セルモノ、如ク思ハレシモ其後依然トシテ輕快ヲ認メズ。

第三例 細川某男 四十二歳 神經斑紋癩 本患者ハ約五年前ヨリ右前膊下半部及手掌手背部ニ麻痺萎縮運動障礙アリ尙左頤部ニ一個ノ斑紋アリ該部ハ知覺脫失セリ左右尺骨神經及左大耳神經ノ肥厚ヲ認ム。

注射ハ昨年十月廿九日ヨリ一月十五日迄ニ七回總量四〇立方仙迷ニ及ビシモ別ニ諸症ノ輕快ヲ認メズ。

第四例 筒口某男 二十四歳 斑紋癩 昨年春頃ヨリ左下腿ニ知覺脫失ア

リ全年十一月頃ヨリ類、頰部ニ知覺麻痺アル斑紋ヲ生ゼリ尙右拇指ノ運動麻痺大耳神經尺骨神經ノ肥厚アリ。

注射ハ二月八日ヨリ三月十日迄ニ回数四回總量廿一立方仙迷ニ達ス第二回ノ注射後ヨリ斑紋ハ多少吸收セラレ知覺モ亦少シク恢復セルモノ、如シ。以上僅ニ四例ノ實驗ヲ以テ古賀液ノ効果如何ヲ論セントスルモノニアラズ其ノ眞價ハ今後數年ニ互ツテ多數ノ應用實驗ニ俟タザルベカラズ。

●金澤外科皮膚科集談會第十三回例會(六月十七日)

紅斑性狼瘡ノ四例

布 施 宗 一

予ハ金澤病院皮膚科ニ於テ本症ノ四例ヲ實驗セルヲ以テ左ニ報告スベシ。

第一例 橋爪某女 三十四才 漆器商

初診大正三年六月十九日

患者生來健ニシテ著患ヲ知ラズ然ルニ二十才頃ヨリ頭部ニ落屑多ク且毛髮密ナラズ常ニ便秘勝チニシテ三年前ヨリハ殊更ニ多量ノ落屑アリ癢痒甚ダシク搔爬スレバ限局シテ頭髮ノ脱落ヲ來シ頭痛ヲ伴ヒ其頃ヨリ自覺の症狀殆トナキ皮膚疹ヲ生シ醫治ヲ受ケタルモ治スルニ至ラザリキト云フ皮膚疹ハ頭部ノ頂上ニ天保錢大ニシテ長徑ヲ前額ニ平行シテ存シ後頭結節ノ左右間隔四仙迷ヲ有スル處ニ瓜核大ノ發疹二個左右顳額部ニ一個宛尙左右耳殼ノ頂上ニ不正圓形小指爪大ノ皮膚疹ヲ有シ何レモ紅斑性狼瘡ノ皮膚疹ニ一致セリ。

第二例 吉住某女 六十歳 無職

初診大正四年六月二日

患者生來健ナリシガ二十年來鼻背兩頰口唇右眉毛部、頸部胸部項部左右肩胛部背部等ニ自覺症ニ缺ケタル發疹ヲ生シ數回醫治ヲ受ケタル事アルモ治スルニ至ラズ而シテ夏期ニ増悪スルト云フ發疹ハ五厘銅貨大ニシテ鼻梁ノ中央二位シ上唇ニ於テハ帽針頭大眉毛部ニ於ケルモノハ輪狀ニ明カナル細キ

隆線ヲ以テ萎縮部ヲ圍繞シ大サ瓜核大頸部項部胸部肩胛部ニ於ケルモノハ胡瓜大ヨリ柿核大ニ及ブ。

第三例 林某女 四十四歳 無職

初診大正四年五月三日

明治三十七年頃鼻ノ左側ニ小發疹ヲ生セシガ漸次鼻背及左眼ノ周圍ニ發生シ三年前ヨリ上唇右側ニモ同一發疹ヲ生ズルニ至リ何等ノ自覺症ナク原因ヲシキモノトシテハ初メ左上眼瞼ニ外傷ヲ蒙レル事アリソレ以來發シタルヤノ感アリト秋ヨリ冬ニ涉リテ病機一時輕快ヲ覺エ未ダ呼吸器病及花柳病等ニ罹リタル事ナシト云フ發疹ハ左上眼瞼鼻背上唇口腔粘膜ニ存シ形不正形ニシテ中央部ハ明カニ灰白色萎縮狀ヲ呈スルモ邊緣ハ鮮紅色ニシテ堤狀ニ隆起ス。

第四例 堀口某男 四十八歳 會社員

初診大正五年五月十三日

患者生來健ナリシガ十八年前腸窒扶斯ニ罹リタルコトアリ五六年前散髮後口唇ニ灼熱感アリシヲ以テ食鹽水ニテ力ヲ加ヘ洗ヒタルニ二三日ヲ經過シテ癢痒性ノ皮膚疹ヲ發シ翌日醫治ヲ受ケ容易ニ治シタルニ唯上唇ニ膿点ヲ有スル一個ノ皮膚疹ヲ遺シ亦容易ニ治シタルニ然ルニ昨年夏頃ヨリ同部位ニ自覺の症狀ニ缺ケタル皮膚疹ヲ發シ漸次擴大シテ今日ニ至ルト發疹ハ上唇粘膜及皮膚トノ移行部ニ柿核大ノ中央少シク陷凹アル紅色ノ皮膚疹口裂ニ平行シテ橫ハル健康皮膚ニ比シテ稍硬ク摘メバ稍輕痛ヲ訴フ。

第一及第二例ハ再來セザルヲ以テ經過不明ナルモ第三例ニハ規尼涅内服レントゲン線放射及「チオノール」パスタ等ヲ貼用セシニ目下ハ口唇及口腔粘膜ニ紅色小隆起ヲ殘ス外全發疹ハ消滅ニ僅ニ白色ノ萎縮狀部ヲ止ムルノミ第四例ニハ水銀石英燈ノ壓迫照射法ヲ試ミタルモ未ダ僅ニ一回ナルヲ以テ他日ヲ期シ更ニ報告スルコト、セン。

「ヘルニヤ」囊内稀有ノ異物

飯森益太郎

「ヘルニヤ」囊内ノ異物ハ Burnet, Ganser, Berger 諸氏ノ少數ナル報告アルモ比較的稀ナリ余ハ二歳一ヶ月ノ幼童ガ長サ三仙迷太サ一・五仙迷重量二・八瓦ノ石筆ヲ嚥下シ四日後ニ至リ右鼠蹊「ヘルニヤ」内ニ簇頓セシ患者ヲ第三日ニ手術セシニ囊内ニハ前記ノ石筆ト約二五・〇ノ稀薄ナル膿アリ膈ハ己ニ穿孔ニ依テ異物ヲ殘シ腹腔内ニ退縮セシヲ以テ創口ヲ開大シ、腹内ヲ檢セシニ腹膜炎ノ爲メ癒着セシ穿孔アル膈ヲ發見セシヲ以テ一部切除レンバルト縫合ヲ施セシモ術後十一時間ニシテ死去セリ。

單純性淋巴管腫ノ一例

森田隼三

北山某男 廿一歳 學生 初診大正五年四月(金澤病院皮膚科外來)三四年前ヨリ左上臍ニ小ナル疣狀物ヲ生ジ漸次ニ新生且ツ増大セリ自覺者ナシ、左上臍上外側ヨリ肘窩及前臍中部ニ互リ粟粒大乃至豌豆大ノ疣狀隆起ニシテ明カニ黃色澄明ノ内容液ヲ透見シ得ルモノアリ或ハ血液ヲ混ジテ赤色ヲ呈スルモアリ、數個或ハ數十個群簇シ殊ニ上臍中央部ニ著シク六七仙迷ニ達セリ周圍ニ行クニ從ヒ小ナルモノニ移行シ或ハ數個群簇分離シテ島岐狀ヲナスモアリ上臍上端六七仙迷ノ暗紅色乃至暗紫色ヲナシ皮膚表面平滑ニシテ一見血管性母斑ノ如ク細キ網狀ヲ呈セリ、指壓ニヨリテ殆ド退色シ、又半球形ヲナスモノハ之ヲ破綻スルニ少量ノ水樣透明液ヲ出ス、被膜比較的厚ク原形ヲ保持ス、自覺症ハ更ニ無ケレハ醜形ヲ呈シ、一見帶狀疱疹ノ如ケレハ周リニ炎症潮紅無ク、又神經症狀等ナシ。凡テ此種ノモノハ先天性或ハ極メテ幼少ノ時ニ發現スルヲ例トスレハ當患者ノ言ノ如キ三四年前ニ發現ヲ見タリトイフ。

横痃ニ對スル發熱療法

澤田一郎

有痛性ノ横痃ニ對シ東大中野學士ハ嘗テ發熱療法ヲ施シ其治驗ヲ報告セテ

レシ事アリ余モ亦昨年來十二名ノ患者ニ對シ人工的ニ發熱セシメ治療ニ供セシ事アリ其方法ハ葡萄狀球菌「アクトン」三―四瓦ヲ肩胛間ノ皮下ニ注射スルニアリ患者十二名中癰疾ニ續發セシモノ二名軟性下疳ニ因スルモノ九名原因不明ノモノ一名内奏効セシモノ七名不成功ノモノ四名轉歸不明一名ナリシ即約三分ノ二ハ之ニ依テ消散セリ但疼痛ハ多クハ熱發中早ク己ニ輕快シ或ハ解熱後少ナクモ一二日間ニ消退スルモ腫脹ノ消退ハ比較的緩慢ナリキ三日間ニシテ尙不充分ナレバ更ニ二回ノ注射ヲナス若シ初回ノ注射ニテ効ナク或ハ却テ炎症増悪セシモノニハ再タヒ續行セズ本療法ハ可及的化膿ノ疑ナキ時期ニ於テ患者ノ體質強健ナルモノ熱度ノ低キモノ術後充分ノ安靜ヲ守ル事ヲ得ルモノニハ試用シテ可ナルヘキモノト信ス。

壞疽性丘疹性結核疹ノ一例

土肥章司

林某男 廿九歳 陶器商 大正五年五月初診 患者生來健康ニシテ著患ナク本病ハ十二三年前先ツ下肢ノ伸展側ニ次テ上肢ノ伸展側ニ自覺症ナキ赤色ノ硬キ立疹發生シ終ニ破潰シテ白色蠟樣ノ内容ヲ排泄シ小潰瘍ヲ造ルアリ或ハ結節ニ止マリ各疹ハ數週間ニテ治癒スルモ更ニ新發疹ヲ生ジ在舊治ゼズ殊ニ夏期ニハ増悪スルモ冬期ハ少數ノ發疹存スルノミ。

患者ハ体格營養共ニ中等内臟骨等ニ異常ヲ認メズ淋巴腺腫脹ナシセルケレハ皮膚反應強陽性、發疹ハ上腿下腿上臍前臍ノ伸展側ニ發生シ大サ豌豆大乃至梅指頭大ニシテ左右均等的ニ且ツ散在性ニ多數存在シ淡赤色乃至褐赤色硬固ニシテ半球狀ニ皮膚面ニ隆起スルアリ或ハ表面ニ痂皮ヲ固着シ之ヲ剝離スレバ小潰瘍ヲ呈スルアリ或ハ既ニ癰痕ヲ形成セルモノモアリ其他幾多ノ小癰痕及ビ暗褐色ノ色素沈着アリ屈側面ハ毫モ發疹ヲ認メズ、本患者ノ如キ數百ノ發疹ヲ有シ經過ハ十數年ニ渉リタル極メテ著明ノ結核疹ノ症例ハ甚ダ稀有二屬スルモノトス。(寫真供覽)

皮膚疣狀結核ニ惡性微毒ノ合併セル一例 土肥章司

新東某女 廿八歲 酒造業 大正五年一月初診

患者生來健ナラズ五年前兩側ノ肋膜炎ニ罹リ約二ヶ月ニシテ治癒セリ花柳病ノ既往症ナシ然ルニ一昨年夏頃左下腿前外側ニ上下二個ノ發疹相前後シテ發生シ漸次周圍ニ蔓延シ終ニ相互ニ融合セリ昨年夏頃右膝窩ニモ發生シ増大スルニ從ヒ疼痛ヲ齎ブルニ至レリ又昨年九月頃ヨリ頸部肩胛部ニ自覺障礙ナキ發疹發生セリ。

体格營養極メテ不良ノ婦人ニシテ脈搏八十六体温三十八度三分内科ニテ兩側肋膜炎及ビ右肺結核ノ診斷ヲ受ケタリ、左下腿前外側ニ長ク十八仙迷幅十仙迷幅圓形ノ病竈アリ中央ノ大部分ハ汚穢暗褐色癬痕樣ヲ呈シテ治癒シ邊藥ハ肉芽樣柔軟ニシテ多少隆起シ表面ハ粗糙疣狀ニシテ濕潤ノ爲メ上皮細胞ノ膨大頽敗ニ依リ灰白色ヲ呈シ疣狀増殖間ニハ小膿瘍アリ側壓ニ依リ膿汁ヲ漏ス疼痛癢痒ナシ右膝窩窩ニモ小兒手掌大ノ同様ノ病竈アリ屈伸ニヨリ疼痛ヲ覺ユ。

項部頸部左右肩胛部ニハ多數ノ半米粒大乃至爪甲大銅赤色ノ發疹アリ多クハ環狀或ハ半環狀ヲ呈シ表面ニ白色鱗屑若クハ黃褐色ノ痂皮ヲ被リ其他丘疹膿疱アリ淺キ小潰瘍ヲ形成スルアリ或ハ癬痕ヲ遺殘シテ治癒セルモノアリ發疹ハ右左兩側ニ均シク散在性ニ存シ一部集簇セル所アリ。

ピルケー氏反應陽性、ワツセルマン氏反應強陽性ヲ呈セリ。

右肩胛及ビ左下腿ヨリ發疹ノ一部ヲ切除シ組織的檢査ヲ行ヒタヘシニ下腿ノモノハ上皮素ノ著シキ延長分岐ト共ニ多數ノ淋巴細胞浸潤、上皮樣細胞及ビ少數ノラングハンス氏巨細胞ヲ認メ(結核菌陰性)肩胛部ノモノハ上皮層ニハ輕度ノ有棘層増殖、不全角化ヲ呈シ乳頭体及ビ乳頭下層ニ於テ淋巴細胞浸潤アリ就中血管周圍ニ著明ニシテ且ツ多數ノ「プラスマ」細胞ヲ認メ得タリ。

右ノ臨牀的及ビ組織的所見ニ依リ予ハ下腿ノモノヲ皮膚疣狀結核、肩胛部ノモノヲ環狀丘疹性及ビ膿疱性微毒疹ト診斷セリ。

治療法トシテ揚未注射ヲ行フコト數回ニシテ肩胛ノ發疹ハ暗褐色ノ色素沈着或ハ淺キ癬痕ヲ殘シテ殆ド治癒セリ下腿ノモノニハ一部焦性沒食子酸軟膏貼用、一部レントゲン線放射療法ヲ行ヒシニ治癒ニ至ラズシテ中途退院セリ。(寫眞供覽)

●講話例會 (六月十七日)

一、開會の辭(午後一時) 部長 須藤 教授
一、偶 感(自抄) 藥一 北島 義 則君

今や歐洲の大動亂より終に青島にて日獨互に戈を交ふるに至り、ために藥品工業界に於ける影響は驚く可く大にして醫界化學界に於ける亦然り。即ち此處に醫藥界の革新の時期は到來せり。此際奮勵努力を以て諸君の勉學研究を促すのである。

一、福島將軍の御講話を拜聽して(自抄) 醫一 團野 輝 雄君
六月八日市公會堂に於ける福島將軍の御講話の主旨は我國の富力増進を望み我等に勸むるに海外出稼及び粗食を以てし玉へり。然れ共學生は尙多少の滋養分の攝取を欠く可からず。予は恐る、將軍の主旨に背かん事を。惟ふに我等は居常質素粗衣なれば將軍の主旨に従ふならん。

一、黃人對白人(自抄) 醫二 辻出 小在 門君
過去の歴史に於て大衝突四回を見たり。而して白人は今や漸く衰亡の兆を見る反之黃人一般に覺醒せり。斯る時渠白人黃禍を唱へ排日を叫ぶ。東洋の羈者遂に起てり。即ち青島に火蓋を切る。歐洲の大亂、袁世凱の死、機運は正に熟す我國民の覺悟や如何!

一、感情の尊重 醫三 齋 藤 靖君

感情を上中下の三層に分つ而して其の上層のものはむしろ理性に勝たれや
すきものにして卑し。唯下に潜む所の情實にからまれざる其の感情こそ尊
けれ。所謂「其の事柄は如何なる理にて無けれ共やつて見たいのだ」と云ふ
其の感無くんば實際には立派な仕事は出来ないものである。

一、啓蒙の餘弊(自抄)

醫二 西 山 蕃君

一、智識の絶對讀美傾向。一、智識を生活の方便乃至は生活改善の階梯と
なすの傾向。此の二つは明治元年に於ける啓蒙の傾向であつた爲め吾々は
生活と生存と、——眞に生くる事と食ふために働く事と、——の矛盾に苦
しみ内界の平衡を失した。この爲に吾々を不信不遜に違ひ疚しさの影を濃
くしたのみ。吾々はその疚しさをほかない理智で蓋はんこ焦つて居る。か
くて猶吾々は餘命を算する事が出来やうか？

一、偽 善

醫四 船 越 光 彦君

偽善の百万は眞善の一毛よりも卑し。

名利のために使役されつゝあるものゝ哀れさよ。

一、向上が頑癪か(自抄)

醫二 若 林 閨 男君

近頃吾校々風の改善せられたるを開け共主に風紀問題の減少を意味するの
み。蓋し校風發揚には消極的也。而かも積極的重要意義ある意氣の大いに
沈滞せざる無きか？。皮相觀には非らざる無きか。

一、工場法實施と吾々(自抄)

醫三 楠 教 惠君

三十年間の懸案なりし工場法は幾多の曲折を経て漸く今實施されんとす。
然れ共彼等職工等の根本的救助は一般衛生思想の發達にあり。これには學
生も亦關與する所、醫學生の校外講演の如きは學生の社會事業としては好
個の事に屬す。此事亦我校の現狀に鑑みて識者の一考を煩しうたいのである。

一、學業成績増進法(自抄)

醫四 坂 東 三 範君

人は各感覺より印象を残し、其の印象は遂に心像として現さる。而して其
の印象の残り様、心像の現れ様は夫々視覺型、聽覺型、運動感覺型、……

……の人なるに従ひて眼より、耳より、節より、……入りたる感覺に於
て鮮明なり。故に各人其型の如何に従ひて各機關を作用せしむる際最もよ
く其の實際の能力を發揮し得ん。唯絶對的ならず。

一、調劑の意義に就て(要旨自抄)

加藤直三郎 教授

吾人が通常調劑と稱するは醫師の處方箋により藥品を調製し、之を患者に
與ふる作業の全般を云ふものにして、若し其の作業が品質上の検査を要す
るものなる時は其の検査成績を引用して其の責任を免れ得べきものに非ず
と解釋するに至當となす。

我が國の如く醫師が自ら調劑を爲す慣習ある國情に於ては醫師諸士並醫學
生諸子は恒に調劑の意義を斯の如く解釋せられ、其の藥物に關する研究は
先づ其の品質の確定より始められん事を希望す。醫師が自ら調劑を爲さず
して調劑者は別に之を置く慣習ある外國の例にならひ、藥品の實質に關す
る智識を除外せらるゝ時は調劑者として遺憾を感じる場合少なからざるべ
しと信ず。

一、偶 感(自抄)

中 村 教 授

須藤部長から本日の講話例會で何か話す様にこの事でありましたが、規則
を見ますと醫學及藥學に關する學術上の演說講話をなし云々とありますが
其は一寸間に合ひ兼ねるを申しました所滞歎所感を話してはこの事でした。
さて事實を申せば今更其の事を(此席では初めてゝはあるといふ)事新しく
申述ぶるも變に思はれますが、仕方無く其事を申述べる事と致します。然し
前に一寸金澤に就て感じた事を前置させようと思ひます。

私は明治三十一年から三十四年迄第四高等學校生徒として當地に居りまし
た。其の間に中學校を出たこの青二歳の自分には、今の醫學專門學校の前
身即第四高等學校醫學部の學生諸君が何だか大人に見へたのでありました
其會遊の當地に思ひがけ無く再び來る事となりましたが、さて今日諸君が
自分の眼に如何に映するかと思ふて參りました。先運動の方面で諸君の活

動を見たのは先月金石に於ける學生角力大會の時であります。其の出場者の元氣旺盛なる、應援の共同的にして盛なる、如何にも大人臭くは無く、實に頼母しく思ひました。其元氣ある諸君が教室に於ける態度としては、秩序整然たる事を見て今後系統的に事物を處理する上に此習慣の必要を感じ、喜ばしく思ふ次第であります。何にしても學問をする人に身体が必要なるは言を俟たず。Mens sana in corpore sano 茲に諸君の此方面の活動を希望するのであります。

さて金澤として以前居つた時と市街の狀に著しき變りを見出しませぬ。大藩なりし爲めでしうが人々物事に寛裕で、屑々せぬ所の美点がありますが、然し一般に敏捷を缺く事がありはせぬかと思はれる節があります。今後の發展に向い識者の注意を要すべきではなからうかと思ひます。尙一つ先日卯辰山での師團歡迎會に於ける出席者の態度が(金澤の人のみとは云はず)果して紳士的なりしや否や、其の點に關しては一二新聞紙にも指摘してあつたやうですから今茲では申述べませぬ。

さて御約束の滯歐所感に入る事と致しますが、纏まつた事は云へず、唯斷片的に申述ぶるのであります。而かも、其の滯在は獨乙に最も長かりし故多く知るは獨乙の事であり、自然話が獨乙の事に重くなる。而かも述ぶる所が其の美き方面に亘る事多く、一寸聞けば獨乙に氣觸れて居るかの感があるかも知れませぬが、惡しき方面殊に道德的方面にて無論指摘すべきものの多く存する事は認めて居るのであります。然し茲では善い方面の事だけを擧げたとして聽て戴きたいのであります。

一、獨乙

一般の通有性として(北南獨乙にては其性質に差はあります。一見北獨乙にては高慢らしく感ぜられ、南には人懐しい様に思はれます。)は進取的である様に思はれます。然し自分の考では獨乙人は獨創的に新しき突飛な事を考へ出す事には得手て居らぬ様に思ひます(學問的の方面にても其の獨

創的の考は佛國露國米國に多くありはせぬか)然し獨乙人は其の一度創められた事柄を組織的に、系統的に研究し組立て、完成せしむる事に得手て居る。而して進むべき餘地ある處には自らを第一位に置かんとする努力がある様に思ひます。其の餘地無きところ(は人種などの事では、白哲なる自分を第一位と思ふて居るらしい)、學問の方法も實物的即示的であり、小學校から高等の學校迄其の様に見受けられる(博物館や動物園などを散歩でもするに卑近の事柄に就ても中々注意が行届き、手近の植物、動物など、其の名や、性質を中々善く知つて居る。其を日本ではどう云ふかなど聞かれてまごつく事があります之は自分の心掛も悪いが、一つは教へ方の不可なる点即ち眼からする事の等閑にされた爲めでは無からうかと思ひます。一般に獨乙人は義務的精神が盛である。今日四圍敵を受け、二年に垂んとする年月を善く續けて行く事の出来るのは、少くも兵士の義務的感念が其一因を作るものと思はれます。

宗教の方面では北と南とにて新舊教の差はありた互に善くは云ひ合はぬが其の關聯して述べたいのは猶太人のみじめな狀態にある事である。其の事は誰にも目立つ事で、其れが唯宗教が違ふ爲めのみにあらず(神を信する耶蘇を残酷に殺せし事の爲めのみにあらじ)寧ろ其は本國を今日有せざる爲と思はれる。其所になる吾人はあちらに在りても實に心丈夫で、御國の有難味が分るのであります。

尙獨乙人には一般に肩書を尊ぶ風があるが、若し誤らざる意味に於て(惡用せざる)の肩書尊長は、其の自信を強くする上に無益でなからうと思はれる、今日日本の狀態が如何であるか、若し惡用が無ければ幸で御座います。

尙一般に國民は質素なる如く、(無論虚榮に強き婦人連の多少服裝等には流行を逐ふ傾向無きに非ざるべきも)、思はる我邦でも少しは學びても善か

らうと思ひます。當地の生活狀態に就てあまり智識無き自分に多くは云ひ得ざるも、尙改めて、少し平民的簡易にやれる事と思ひます。

各都市の文明的、衛生的設備の完全なる、又大學の數の多き羨望に堪へぬ

次第で、細君と共に吾人の努力により、學校が追々發展するならば、此

羨望は昔語りとなる事と信じます。獨乙の各聯邦は互に獨立して居る外交、

海軍等の事に關し聯邦會議がある様な組織である。而して半時には御互に

其の惡口をたたくが、然し一度戦争となる、其の當時目撃せしに熱誠の

露はれたる國民の態度は日露戦争の吾邦の狀を思はしめ、兵士の行を盛に

し *Wacht am Rhein* の歌を唱へて居る狀を見て、平時の狀に兄弟牆に關

ぐの狀なりし事を知るのであります。即戦争となれば大なる意味の愛國心

は必しも我邦人の專賣のものでは無いのであります。然し我が邦の如きは

建國の歴史の秀でたる爲めに愛國は忠君忠君は孝行と一致する。かゝる慶

度事は恐らく他に見られぬ事と思ひます。

二、英吉利

私は英吉利には長くは居らず、一寸見た丈だから多くを語る事は出来ぬが、

我々の先輩の多くは英國人を評して、一般に於て紳士的なりき。落しその

如く紳士的態度と許して、實際して誤り無きかは、今後識者の廣く材料を

集めざる可からざる事と思ふのであります。事實に於て此頃同地の留學を

了へて歸りし人達の話では、寧ろ反對の説をなす人の随分あると思ふから、

この事をいふのであります。

英國の大都市の建物の宏壯のものあり、寺院の歴史的有名なるものもある

事は明かであります。有名なる鯨橋、牛津の冬「カレーヂ」を見て、萬の匍

て居る何百年を経たる建物を視、内に入りて知名の士の用ひし卓など視る

時は歴史を重ねる流石に奥懐しき事と思はれる。(かゝる知名の士の建物

などを記念する事は、無論獨乙にもある、たゞへば「アーデハウス」、「シル

レルハウス」などの如き、又放射線の發見者、レオンチェンが研究せし

教室を記念する類のある如き等)。何れにしても、若し余の觀察が誤無きものせば英國は進取的といふよりも、寧ろ保守的、歴史に重きを置く國と見るべき様思はる。

尙英國の陸軍を云爲する人が在るが、それは無理からぬ事であらう。若し

開戦當時のハイドパークの夜英陸軍兵士の様を見たならば、風紀如何を見

る上に參考となるものがあつたらうと思ふのであります。

何れにしても獨乙は進取的で系統的に組成し學問的に研究するらしく見

英國は保守的にて歴史を重むる所らしく思はる、吾人はされば何れを採

るべきか？

我が健國の歴史を考へ、我國固有の國体に察せば其道德を永久に傳へる上

に、歴史を重むる事は無論必要である。而して尙稚幼なる科學の進歩を

謀るには勿論進取的で無くてはならぬ、即ち吾人は其必要に應じ各其長を

取るべき事と思ふ。

此頃識者の間に學問の獨立を述ぶる者多し、然し茲に注意すべきは學問の

獨立と、學問の孤立とは區別せざるべからず。獨立はよろしきも孤立して

進歩を謀る事難し。即ち吾人は今日の立場に於て、否未來に於ても廣く智

識を「インテルナチオナル」に求め、業績を國內に擧ぐる事を勤むべきで

あらう。學究の徒の努力に待つもの大いのであります。

而して前置に云ふた緒の括りとして、金澤の人士に向つては少し進取的

大に、敏捷なるを奨めんとし、諸君に向ては健康の上に注意を促し、同時

に一つの名句を挙げ様と思ひます。即ち、

Das Talent sei wesentlich Wille und Arbeit.

(委員 坂東記)

通信

●小池才一氏通信 (大正元年卒業)

(前署) 愚生上京以來はや二ヶ月を経過致し候其の間何等深き研究もせず汗顔の至りに存候へ共以下少しく只だ斯學に關し見聞いたし候事共概略御報知申可く候理學的療法學中殊にレントゲン學は嘗て想像いたし居り候より、はるかに範圍の廣く電氣磁氣學に精通す可きは勿論醫學の各科目をかなりくはしく知得せざれば到底専門家として立つ得はず候故小生如き淺弱なる頭腦を有するものには仲々困難を感じ今更乍ら院命を甘受せるは自己を知らざるの甚だしいものなりしとウラ恥しく候も各位の御厚情に對し兎に角「ベスト」を盡し居り候

順天堂病院に設置せらるゝ理學的療法はレントゲン、「ラヂウム」、高周波電流「アルソンバルザチオン」、「デアテルミー」、「リヒトバード」、等に御座候「デアテルミー」のみは當院泌尿器科に設置あり昨年母校出身の今井君が専ら使用せられ多大の御經驗あるも小生は未だ知らず歸院迄には研究いたす可く候、其他は當レントゲン科にあり。部長は醫學博士藤濱剛一先生にて仲々精力絶倫毎朝七時乃至七時半迄に御出勤あり午後六時過ぎに御歸宅せられ候日曜日にも休まれず研究の爲め出院いたされ候但し日曜日丈は外來患者來らず候、醫局員も毎朝六時、七時迄には出院し先生御歸宅後に退院仕り候、毎日患者は平均二十四五名多き時は三十名もあり、三分の一は診斷の目的にて各科の市内開業醫より廻り三分の二は治療の目的にて始めより當科に來り候。患者中内科婦人科に屬するもの三分、皮膚科及外科

に屬するもの七分に御座候、私ら午前七時迄に出院し直ちに再來患者の經過を尋れ、新患者の既往症を取りなご午前中は主に其の方の手傳をいたし候内科に居た小生の事にて皮膚科、婦人科、外科等の既往症及現症の記載には始めの中仲々面喰ひ申候、總て既往症は甚だしく詳しい事を聞かればならず後日報告する必要ありこの事に候。診斷するのは多く寫眞にて只だ胸腹部丈は照射のまゝ診斷いたされ候、外科的のものは尤も多數にて主に淋巴腺結核にて次に位するは關節の結核、副睪丸結核に候仲々治療成績よくし御座候又惡性腫瘍の摘出後は照射し。「アクチノミヨーゼ」(腹部の)も治療いたし居り候、ハイモル氏寶の「エンビエム」頭蓋腔及眼窩内腫瘍、頸椎胸椎腰椎「カリエス」。各關節炎、關節「ロイマチスミス」、腎石症、膽石症、等總てレントゲン寫眞にて診斷いたし居られ候關節結核の治療中一定の日を置いて規則正しく寫眞を取り治療の有様を判定いたし候、婦人科より殊に子宮筋腫毎日二三名廻り候治療成績は非常によく御座候、皮膚科は色々あれど殊に「エクチエーマ」。痒癢性の疾患に著効御座候、内科的にはあまり治療の應用はなく主に診斷が多く目下肺結核に治療の目的に應用いたし候も著變なし、内科的疾患中診斷出来るものは各種の大動脈瘤、縱隔洞腫瘍、肺腫瘍、肺門腺腫脹及乾酪性氣管枝炎、初期肺結核、粟粒肺結核、乾性及び濕性肋膜炎、癒着性肋膜炎殊に橫隔膜肋膜炎、心臟辨膜病(即ち形狀によりて病的辨膜の部位を知り得)、心囊炎、肺「デストーマ」各種の食道狹窄に「ビスムート」を嚥下せしめ原因の診斷す。等胸部の疾患は殆んどX線にて確實に診斷し得る有様に御座候(勿論聽診、打診、及臨床的自覺症を參考にして)。殊に屬々實驗せるは臨床的に肺結核に相違なきも所見不明な患者に於てX線にて肺門より來る結核なる事を知りし例は多數御座候、其他散在性に小なる肺結核あり臨床所見全く欠如せる數例に出合ひ申候、又小生には診斷附かざる頗る輕度の肺炎加答兒もX線にて陽性なりし數例も御座候、此んな場合は實に難有思ひ候當科に來る内科患者は私が

殆んど全部臨床的に調べてX線診斷と一致するや否やを見得る特權を先生より附與せられ喜び居り候、臨床科を去りて二ヶ月経過せるも毎日打診聽診に必ずいたし候故病院で覺いたる診察法は存外忘れず候、腹部疾患中診斷して居るは胃痛。胃潰瘍後の癰痕收縮、胃「アトニー」、胃「プルーゼ」幽門狹窄。胃ト腸トノ癒着、腸の狹窄、腸の運動力等に御座候、胃腸も仲々立派に診斷出来るも胸部に比しては六かしく又多大の練習を要し申候。小生上京以來X線診斷中内科的疾病的の痛快さはミス氏飛行機由返りの愉快さに比す可く候。始め一ヶ月半位は解剖學中の骨學を復習いたし候レントゲン解剖學と云ふ意味のものを教はり申候、其れは健康なる骨や關節や内臟等の寫眞種板を毎日午後一時より六時迄寫生いたし候(眼を鋭くする爲めださか申され候)寫生は一週間ほど以前迄に百枚以上いたし候、此れから始めて病的種板にて教を受けるわけに候(下畧)

順天堂病院レントゲン科にて

六月六日

小池才一

岡本晃氏通信

(大正二年卒業。神戸東山病院)

(前畧)小生事實は本年三月初め迄福岡稻田内科に在學罷在り候處少く事情有之大分縣別府私立病院に一ヶ月餘り手傳に參り居り候處此度當東山病院に就職仕り御座を以て日々恙なく勤務罷在候間乍余事御安心被下度候當地には先月初めに參り早速御消息仕る本意の處種々雜用に取紛れ今日迄失禮仕り居り候段惡からず御海容被下度候

當地は御承知の通り同窓先輩の方々盛に御活動致し居らるゝ地に御座候へば誠に萬事心強く存じ候

御承知の通り目下當地は痘瘡施行致し居り本年初めより今日迄既に百數十

名の罹病者を出し申候目下東山病院に收容中のもの三十五名有之候へ共本年の流行は幸に今日にては餘程下火と相成り候
當病院は一般傳染病患者收容の外市立衛生試驗所を兼ね居り候爲め雜務中中忙しく御座候醫院長天兒博士は頗る懇切に御指導被下候へば何より幸福と存じ候(後畧)

六月十四日

東山病院にて 岡本晃

雜報

●田村教授學位受領祝賀會 (六月二十五日)

大正五年六月二十五日本校講堂に於て田村教授學位受領祝賀會舉行せらる。此日朝來空曇り時々細雨ありて涼しく校門に懸せる日章旗は風に翻翻として田村博士の隆運を祝する如し。式は生徒一同の參列あり續て主賓田村博士全母堂全令夫人全御子息は委員長土肥博士の先導にて喝采の裡に着席せられ午後二時を以て開始せらる。

式次 第三

- 一 開會の辭 委員長土肥博士
- 一 記念品贈呈 上野辰治郎君
- 一 祝 辭 校長代理山崎病院院長
- 一 祝 辭 同僚總代松原博士
- 一 祝 辭 門下生總代近藤清吾君
- 一 祝 辭 學生總代橫井英太郎君
- 一 謝 辭 田村博士

休 憩

茶 菓

一閉會の辭 委員長土肥博士

▲田村教授學位受領祝賀會費決算報告

収入金額貳百拾七圓也

支出金額貳百拾五圓〇五錢也

内 譯

一金九拾七圓拾錢

一金參拾五圓也

一金參拾八圓也

一金四圓六拾錢

一金參拾圓

一金參圓五拾錢

一金貳圓拾錢

一金貳圓七拾五錢

差引殘金壹圓九拾五錢

右殘金は十全會圖書部に寄附す。

職員及生徒會費

菓子及茶代

贈呈金メタル一個

餘 興 費

活花及造花代

寫真額二面

車 代

座布團借代

雜 品

學校小使手間費

叙任及辭令

●内務省

金澤醫學專門學校教授正七位醫學博士 福 士 政 一

陞叙高等官五等

依願免本官 (七月八日)

任文部省學校衛生官

高等官五等

四級俸下賜

北 豐 吉 (三〇)

防疫官 松 王 數 男 (三五)

●陸軍省

賜一等給 (六月十七日)

陸軍一等軍醫 吉井康次郎 (三七)

陸軍三等軍醫 北村清太郎 (大ニ)

陸軍三等軍醫 青木伸一 (大ニ)

任陸軍二等軍醫 (六月二十四日)

●海軍省

任海軍少軍醫 (七月一日)

水 島 亨 (大五)

海軍々醫學校乙種學生被仰付 (七月一日)

●石川縣

命金澤病院醫員(外科一部)(十二級俸給與)

八 島 修 (大五)

一級俸下賜

監獄醫 石崎喜一郎 (甲醫)

人 事

●齊藤喜之吉氏(大ニ) は卒業後福井縣武生病院に勤務中なりしか今回福

井縣足羽郡麻生津村淺水に於て開業せらる。

●廣瀬竹次郎氏(四四) 金澤輻重兵第九大隊附に轉任せらる。
●春日 望氏(四〇) 北海道勇拂郡苦小牧村、市街地にて開業せらる。
●川北隆吉氏(大五) 大阪市西區本田通一丁目日本海員救濟會大阪病院に勤務せらる。

●轉 居

京都市上京區聖護院町字い五十四、中島方 内藤 榮 治(大五)

會 告

●大正四年度十全會費収支決算報告

大正四年度金澤醫學專門學校十全會費別紙ノ通り決算ヲ遂ケ候結果収入ニ於テ金拾八圓八拾七錢ヲ減シ支出ニ於テ金拾八圓八拾七錢剩餘ヲ生シ差引過不足ナシ

現在資金ハ大日本帝國政府四分利公債証書額面千參百圓並ニ金貳百六圓參拾壹錢ナリ内譯左ノ如シ

大日本帝國政府四分利公債証書額面千參百圓也
金貳百六圓參拾壹錢

内

金百拾四圓七拾七錢也
金九拾壹圓五拾四錢也

前年度ヨリ繰越金
故黒川良庵先生記念
銅牌建設殘餘寄附金

内
金七拾七圓六拾八錢也 同上元 金
金拾參圓八拾六錢也 同上預金利子

金拾壹圓五拾壹錢也 前年度迄利子累計
金貳圓參拾五錢也 本年度利子
尙外ニヒアノ購入基金九拾參圓六拾四錢貳厘アリ
依テ繰越現金貳百九拾九圓九拾五錢貳厘ナリ

●大正四年度金澤醫學專門學校十全會収入決算表

科 目	豫 算 額	収 入 済 額	豫算額ニ比シ		備 考
			増	減	
第一款 金澤醫學專門學校十全會	一、六元・〇・〇	一、六〇・〇・〇〇	—	一八・八〇〇	
第一項 特別會員寄附金	八・八〇〇	八二・〇六〇	—	六〇	
第一目 職員寄附金	八・八〇〇	八二・〇六〇	—	六〇	
第二項 通常會員會費	一、三三〇・〇〇〇	一、二二三・〇〇〇	—	一〇〇・〇〇〇	
第一目 醫學生會費	一、〇〇〇・〇〇〇	九六・五〇〇	—	三・五〇〇	
第二目 藥學生會員	三三〇・〇〇〇	二六五・〇〇〇	—	三・五〇〇	
第三項 入 會 金	二九〇・〇〇〇	二二一・〇〇〇	—	一・八〇〇	
第一目 入 會 金	二九〇・〇〇〇	二二一・〇〇〇	—	一・八〇〇	
第四項 利 金	六・三三〇	三〇・〇〇〇	—	—	
第一目 預金利子	六・三三〇	三〇・〇〇〇	—	—	

●大正四年度金澤醫學專門學校
十全會費支出決算表

科 目	原豫算額	流用増減 額*印ハ減	豫算現額	支出済額	不用額
第一款 金澤醫學專門 學校十全會	一、七九・〇七	—	一、七九・〇七	一、三〇・二〇	一八八・七〇
第一項 講話部	五・一〇〇	三・一三〇	八・二三〇	八・二三〇	—
第二項 大會費	五・一〇〇	三・一七〇	八・二七〇	八・二七〇	—
第三項 通常會費	三・〇〇〇	*一・七四〇	一・二六〇	一・二六〇	—
第二項 雜誌部	三、四七・六〇	—	三、四七・六〇	三、四七・九〇	七〇
第一目 雜誌費	二、四六・三七	四・二八〇	二、八七・六五〇	二、八七・六五〇	—
第二目 圖書費	五・五五〇	*二・六五四	二、七〇一〇	二、七〇一〇	—
第三目 通信費	九・〇四〇	*三・一三〇	五、九一〇	五、九一〇	—
第四目 消耗品費	四・二五〇	*二・四四〇	一、七四〇	一、七四〇	—
第五目 製本費	六・一〇〇	*三・〇〇〇	五、五五〇	五、五五〇	—
第六目 雜費	六・〇〇	*二・二〇〇	五、四〇	四、七〇	七〇
第七目 電燈費	三、五・七〇	*六・四四〇	一、九・六〇	一、九・六〇	—
第三項 コンテニス 部	一、三三・三五	—	一、三三・三五	一、三三・三五〇	—
第一目 部費	九・二五〇	一九・三八〇	二、〇・六三〇	二、〇・六三〇	—
第二目 大會費	三・〇〇〇	*七・三六〇	三、三六〇	三、三六〇	—
第三目 コード修 繕費	二・〇〇〇	*三・〇〇〇	—	—	—
第四項 劍道部	九、四・〇〇	—	九、四・〇〇	九、三・九九五	五
第一目 大會費	二九・五〇〇	六・八〇	三〇・二八〇	三〇・二八〇	—
第二目 獎勵費	六四・五〇〇	*六・八〇	六一・七〇〇	六一・七〇〇	—
第五項 柔道部	一〇〇・〇〇〇	—	一〇〇・〇〇〇	一〇〇・〇〇〇	—
第一目 大會費	二八・五〇〇	八・七三〇	三七・二三〇	三七・二三〇	—
第二目 獎勵費	七一・五〇〇	*八・七三〇	六二・七七〇	六二・七七〇	—
第六項 弓術部	八・〇〇〇	—	八・〇〇〇	八・〇〇〇	—
第一目 大會費	一五・〇〇〇	*三・〇〇	一四・六九〇	一四・六九〇	—
第二目 備品費	一六・二〇〇	八・一四〇	二四・三四〇	二四・三四〇	—
第三目 獎勵費	四九・八〇〇	*七・八三〇	四一・九七〇	四一・九七〇	—
第七項 野球部	九五・六八〇	—	九五・六八〇	九五・六八〇	—
第一目 部費	五・九三〇	一・七四〇	七・六七〇	七・六七〇	—
第二目 大會費	一五・〇〇〇	六・〇一〇	二一・〇一〇	二一・〇一〇	—
第三目 コード修 繕費	三三・七五〇	*三・七五〇	—	—	—
第八項 相撲部	一〇〇・〇〇〇	—	一〇〇・〇〇〇	一〇〇・〇〇〇	—
第一目 部費	四〇・〇〇〇	五・二一〇	四五・二一〇	四五・二一〇	—
第二目 大會費	六〇・〇〇〇	*五・二一〇	五四・七九〇	五四・七九〇	—
第九項 遠足部	三〇・〇〇〇	—	三〇・〇〇〇	三〇・〇〇〇	—
第一目 部費	三〇・〇〇〇	—	三〇・〇〇〇	三〇・〇〇〇	—
第十項 會務費	一三・二六〇	三・八〇	一三・六六〇	一三・六六〇	—
第一目 教師囑託 手當	二五・五〇〇	—	二五・五〇〇	二五・五〇〇	—
第二目 備品費	七・五〇〇	*三・三八〇	三・一二〇	三・一二〇	—

第三目	印刷費	五〇〇		五〇	五〇〇		
第四目	消耗品費	四・一〇	四・八〇	八・九〇	八・九〇		
第五目	雜費	五・六〇	*	五・〇〇	五・〇〇		
第十項	學術實習部	五・〇〇		五・〇〇	五・〇〇		
第一目	藥品材料費	四・〇〇		四・〇〇	三・八〇	二五・二〇	
第二目	備品費	一〇・〇〇		一〇・〇〇	一・八〇	一・九〇	
第三目	雜費	五・〇〇		五・〇〇		八・二〇	
第十項	豫備費	六・一〇	*三・五〇	三・〇〇	二七・九〇	二・六〇	
第一目	豫備費	六・一〇	*三・五〇	三・〇〇	二七・九〇	二・六〇	
第十項	端艇基金	一・〇〇		一・〇〇		一・〇〇	
第一目	端艇基金	一・〇〇		一・〇〇		一・〇〇	

●大正四年度金澤醫學專門學校
十全會臨時費支出決算表

科	目	原豫算額	流用 減増額	豫算現額	支出濟額	不用額	備考
第一款	金澤醫學專門 學校十全會	三・五〇		三・五〇	三・五〇		
第一項	臨時費	三・五〇		三・五〇	三・五〇		
第一目	相模常設館 建設費	三・五〇		三・五〇	三・五〇		

●大正四年度十全會校外特別會員
會費収支決算報告

大正四年度十全會校外特別會員會費収支決算ノ結果

本年度収入金額ハ

八四二・七六〇

ナリ内

自大正五年度會費前納金額
至大正九年度會費前納金額
ヲ扣除殘金

二六九・四〇〇

ハ本年度實収入金額ナリ

五七三・三六〇

本年度支出濟額ハ

四五八・〇六〇

ニシテ収入額ニ比シ

一一五・三〇〇

ノ剩餘ヲ生シタリ而シテ

此金額ハ會則第十六條ニヨリ資金ヘ組入スヘキモノナリ

資金ハ大日本帝國政府四分利公債証書額面參百圓並ニ金千拾四圓參拾四錢
參厘ニシテ内譯左ノ如シ

金八百九拾九圓四錢參厘

前年度ヨリ繰越額

金百拾五圓參拾錢也

本年度剩餘金

依テ繰越現金千貳百八拾參圓七拾四錢參厘ナリ

右報告候也

●大正四年度金澤醫學專門學校十全會
校外特別會員會費収入決算表

科	目	豫算額	收入濟額	豫算額ニ比シ 増減	備考
第一款	金澤醫學專門 學校十全會校 外特別會員會 費	八六・〇〇	八四・七〇	八・六〇	

第一項	校外特別會員	會費	六三・八〇〇	六五・四〇〇	一三・四〇〇	內百貳拾
第一目	大正四年度	會費	四八・八〇〇	五五・一〇〇	一〇・四〇〇	錢八本
第二目	前年度未納	會費	三・〇〇〇	三・〇〇〇	〇・〇〇〇	以前前納
第三目	前納會費	一五・〇〇〇	六二・一〇〇	一八・八〇〇		
第二項	利	金	一〇・〇〇〇	三・三〇〇		
第一目	預金利息	一〇・〇〇〇	三・三〇〇			
第三項	繰越金	一七・二〇〇	二〇・一〇〇			
第一目	繰越金	一六・二〇〇	二〇・一〇〇			

●大正四年度金澤醫學專門學校十全會
校外特別會員會費支出決算表

科	目	原豫算額	流用増減 *印ハ減	豫算現額	支出済額	不用額
第一款	金澤醫學專門學校十全會校外特別會員會費	四七・八〇〇		四七・八〇〇	四八・〇〇〇	元八〇〇
第一項	校外特別會員會費	四八・五〇〇		四八・五〇〇	四八・〇〇〇	五〇〇
第一目	雜誌費	三六・〇〇〇		三六・〇〇〇	三六・〇〇〇	
第二目	通信費	七・〇〇〇		七・〇〇〇	七・〇〇〇	
第一節	郵便電信料	三・六〇〇		三・六〇〇	三・六〇〇	
第二節	在京囑託員通信料	五・八〇〇		五・八〇〇	五・八〇〇	
第三節	會費集金	三・六〇〇		三・六〇〇	三・六〇〇	
第三目	雜費	一七・五〇〇		一七・五〇〇	一七・五〇〇	

第二項	豫備費	元・三〇〇	—	元・三〇〇	—
第一目	豫備費	元・三〇〇	—	元・三〇〇	—

●自大正五年四月一日校外特別會員會費調書(前號)
至全 五月十八日

金參圓也	自大正五年度	三ヶ年分	本江慶太郎殿
金貳圓六拾錢也	自大正三年度	三ヶ年分	柿澤 雅一殿
金壹圓六拾錢也	自大正四年度	二ヶ年分	正木 芳隆殿
松原 氏獻殿	自大正五年度	四ヶ年分	鈴木寛之助殿
松田 泰藏殿	自大正五年度	三ヶ年分	鈴木啓一殿
淺野 達也殿	自大正五年度	三ヶ年分	楠野末太郎殿
庄司 正義殿	自大正五年度	二ヶ年分	青木國三郎殿
金壹圓也	自大正五年度	三ヶ年分	松坂幸七郎殿
石川 元良殿	自大正五年度	三ヶ年分	松井 源長殿
西村 政吉殿	自大正五年度	三ヶ年分	長村 吉太殿
水上佐太郎殿	自大正五年度	三ヶ年分	宇佐美保久殿
武田久米藏殿	自大正五年度	三ヶ年分	鈴木修一郎殿
富澤圭太郎殿	自大正五年度	三ヶ年分	花岡佐太郎殿
八賀 重造殿	自大正五年度	三ヶ年分	北村 祐壽殿
山村 茂一殿	自大正五年度	三ヶ年分	中西 島吉殿
秦 親眞殿	自大正五年度	三ヶ年分	渡 孚貞殿
角田 耕六殿	自大正五年度	三ヶ年分	吉池 省吾殿
	自大正五年度	三ヶ年分	伴 鐸也殿
	自大正五年度	三ヶ年分	中川 善松殿
	自大正五年度	三ヶ年分	並河 權六殿
	自大正五年度	三ヶ年分	細田 榮殿

金壹圓也

大正五年度分

寺尾 敬三殿 馬場 庄江殿
中村 德藏殿 眞柄佐二郎殿
竹中繁次郎殿 朝日 吳殿
富田 寛殿 谷中 正勝殿
三股 梅吉殿 福島 可輔殿
高橋 八郎殿 横山 昇殿
重本 儀介殿 猪木 彦助殿
輕部 修一殿 杉田治十郎殿
四倉 重篤殿 堀 政次殿
笹田 順二殿 宮川 薰殿
武田 正壽殿 北川 健三殿
森田 隼三殿 田中一次郎殿
豐田今吉郎殿 中山甲五郎殿
木越 豐松殿 池田 秀雄殿
平泉 泰雄殿 西村福太郎殿
山口辰五郎殿 山田金一郎殿
山内 順治殿 植西 武彦殿
中須 熊藏殿 西坂 武茂殿
小高仰四郎殿 山田 有登殿
鷹見 義郎殿 諸橋林太郎殿
洲崎 歸一殿 老川 雪房殿
深美貞之助殿 上野 貞吉殿
吉田 東秀殿 辻井禮太郎殿
杉部多米吉殿 田口 泰殿
金予 義長殿 上原 秀三殿

横山 軫殿 佐藤政太郎殿
星野 正齊殿 堀川 藏重殿
高橋 重二殿 河村 多郎殿
久保義一郎殿 敷波重次郎殿
田中 三彌殿 酒井 利勝殿
藤井 助雄殿 月原 秀範殿
植木 信親殿 重森平一郎殿
岡 忍殿 杉山 貞二殿
森 条次郎殿 河崎 有作殿
崎 達郎殿 藤井 溫良殿
池田恒太郎殿 島田吉三郎殿
桑原 益方殿 加藤 慶三殿
中野 才幸殿 駒田 一正殿
中田 德二殿 布村 祥殿
松田 研吉殿 坂井迪太郎殿
高田 茂一殿 篠尾 明濟殿
深澤 忠義殿 鴨脚 光榮殿
山内馨二郎殿 駒井 定哉殿
柴田 綱三殿 廣山 壽男殿
大塚 三郎殿 中本和三郎殿
小島 佐藏殿 太田 勘市殿
佐伯 亮齊殿 越野義三郎殿
笠 篤吉郎殿 福田 美明殿
藤田藤右衛門殿 福里 次吉殿
眞緒 修平殿 川上 操一殿
岡田 甚英殿 山村 鏑二殿

金壹圓也

大正五年度分

樋口 平次殿 平松敏四郎殿
古丸藤三郎殿 蚊野才三郎殿
長澤 安弘殿 田上 清貞殿
小西 眞清殿 中川 久成殿
山際房次郎殿 増井榮太郎殿
大井 精殿 片山常三郎殿
日下 辰吉殿 近藤 琢磨殿
上木 隆基殿 齊藤 友一殿
有壁 一雄殿 茂居 政治殿
勝股 亨殿 阿波加憲吉殿
島村伊之助殿 宇賀治元造殿
安田 則人殿 松田 隆殿
萩原 忠殿 小林 茂樹殿
才田 猶次殿 黒田 眞岳殿
安積 鼎殿 松王 數男殿
太田 長作殿 酒井 碩治殿
早瀬 三求殿 安田 三木殿
白井 丈吉殿 齊藤 賢德殿
芦澤 照殿 眞澤 貞一殿
重田 稔殿 安藤 佐吉殿
芥川 信殿 武内 清作殿
上野辰太郎殿 乙部 元治殿
日野 信次殿 大屋 保治殿
藤浪 謙殿 英 軒二殿
岩佐 兵藏殿 小田 善壽殿
熊澤 清隆殿 山田 義忠殿
佐々木純一郎殿 澤澤 孝治殿
福岡 喜洋殿 藤井伊三吉殿
近郷 重季殿 城石 健治殿
田島 耕平殿 上阪政太郎殿
中元長三郎殿 中川 眞忠殿
藤井 最正殿 村山常三郎殿
坂本 信一殿 小暮 喜一殿
新 八郎殿 山口 登殿
城 起吾老殿 黒田 道純殿
小島 隆義殿 鈴木於菟吉殿
垣内 昇殿 竹村 茂三殿
増田 貞吉殿 高井 魯一殿
齊藤 房治殿 西原愛太郎殿
若林 篤之殿 名取 博三殿
古谷 強殿 南部 健一殿
玉森 法靈殿 松村 喜一殿
福山 可藏殿 森 義作殿
駒田作之進殿 説田 順一殿
古屋 興三殿 山内 兎毛殿
安田 末吉殿 西村 貞俊殿
秋山八百藏殿 平手 秀敏殿
政山 龍雄殿 松尾 等殿
中谷 正範殿 北 豐吉殿
深澤治三郎殿 山脇 泰治殿
藤卷敏太郎殿 片岡 正殿

金壹圓也 大正五年度分

原田悅五郎殿	山田章一郎殿	笹岡 芳名殿	橋本 澄殿
佐々木茂樹殿	本 仙太郎殿	山崎 清吉殿	野嶽 利七殿
荻川 龍太殿	納富嘉太郎殿	星子 元眞殿	村松 貞治殿
中村欣一郎殿	澤田 定信殿	加藤 錠吉殿	富家 光雄殿
秋野 定吉殿	丸谷熊次郎殿	白石福三郎殿	三上 儉治殿
桑島 柳吉殿	柳原 隆殿	曾田米三郎殿	佐藤 武殿
村本笹次郎殿	澤 賢吉殿	坪田 義門殿	佐竹 秀一殿
松浦 啓三殿	野村 敏殿	佐崎 伊久殿	久我 龜殿
山科他喜雄殿	高岡 榮殿	勝部 方策殿	馬場 穉殿
赤尾 肇三殿	平澤 謙齊殿	加藤 大殿	西川 眞造殿
馬淵 眞澄殿	佐竹 清吉殿	小野林利一殿	彦坂 誠一殿
大塚 正一殿	桑折 直殿	五十嵐久十郎殿	小山田 基殿
野村 亮吉殿	戸谷 慈一殿	小島 顯治殿	須田嘉三郎殿
安澤 一清殿	八牧 政孝殿	平野郷治郎殿	白木 孝一殿
江藤 潤一殿	安宅 治六殿	山崎芳太郎殿	北村 一清殿
堀 孝信殿	高崎 文雄殿	北川友三郎殿	栗林 信殿
岡田 秀造殿	仙場 松齊殿	松井梅二郎殿	荻野 鶴治殿
高 伊三郎殿	河合 勝殿	松山 清殿	尾崎 平吉殿
森川 修殿	德久 恒治殿	高澤 冠一殿	山田外來雄殿
渡邊九壽松殿	澤田 辰造殿	鈴木 實殿	松村 魁殿
酒井 政吉殿	松崎源次郎殿	坂井 茂殿	松本 常次殿
河口 賀眞殿	齊藤 義雄殿	池上 豐殿	渡邊八之進殿
谷口 長松殿	塚原千津馬殿	七五三龜吉殿	屋富祖德次郎殿
久保田保治殿	鈴木 俊定殿	山田 幸吉殿	河合 鷹殿
黒田 孝夫殿	上野 善造殿	中川 喜平殿	齊藤銀一郎殿
		森 舜司殿	國分 金城殿

金壹圓也 大正五年度分

丸谷 定雄殿	甘利 昇殿	小西 俊三殿	小出貞次郎殿
久保田宮太郎殿	牧 良一殿	宮城 篤珍殿	守部廉次郎殿
久津 明一殿	成田 成治殿	大西 瀨治殿	住田 立殿
島田 靜男殿	榊原 久殿	梅澤 亮吉殿	大武 國治殿
小林唯四郎殿	齊藤 金則殿	長田八三郎殿	江村 正也殿
根布 貞吉殿	村尾 純昌殿	古屋 榮治殿	鳥居 環殿
馬庭駿一郎殿	吉川 友信殿	奥山 正雄殿	近藤 勇記殿
長谷 眞美殿	竹園 圓隆殿	武曾 三郎殿	熊西 中藏殿
窪美 一久殿	栗本 保身殿	坂本 修吉殿	寺本 儀一殿
大脇 彌平殿	山崎 重治殿	村上 盛肇殿	竹内義一郎殿
矢原 準一殿	吉川 誠殿	井土 又吉殿	富田 豐咲殿
谷中黎次郎殿	久津木勝作殿	山下 銀吉殿	西 正胤殿
宇野 正殿	周 頌聲殿	藏 尙太郎殿	下條 正夫殿
本 正生殿	韓 清泉殿	平澤 嘉圓殿	木根淵 清殿
土屋 重俊殿	淺利 義治殿	影山 清美殿	藤井榮四郎殿
林 秀雄殿	渡邊 四郎殿	山田伊之助殿	神岡藤一郎殿
藤井 一雄殿	北村清太郎殿	近藤 時男殿	淺井 泰殿
吉見 昌造殿	柴田 順三殿	御堂 實成殿	鈴木 正孝殿
金壹圓也 大正六年度分	小池 才一殿	吉田 誠一殿	
金六拾錢也 大正五年度分	原田 四郎殿	小池 才一殿	
上島 耕治殿	石橋 四郎殿	春田久太郎殿	
岡 久男殿	和田 政範殿	中澤 百祐殿	
梅岡 幸三殿	久高 唯忠殿	大井良八郎殿	
並河 茂樹殿	加勢 基殿	志村 猪藏殿	
濱野 文吉殿	鶴木 政雄殿	大瀧 經殿	
水口 哲三殿	矢吹 清殿	江守 武殿	
松下嘉右衛門殿			

以上

●自大正五年五月十九日校外特別會員會費納付調書
至全 五月二十日

金額 期限 氏名

金六拾錢也 大正五年度分 小池 勇 助殿

金壹圓六拾錢也 自大正四年度 二ヶ年分 清水 亮殿

金參圓也 自大正五年度 三ヶ年分 岸 良 一殿

金參圓也 全 水 島 亨殿

金壹圓也 大正三年度分 菊 地 文 岱殿

金六拾錢也 大正五年度分 錢 崇 潤殿

金壹圓六拾錢也 自大正四年度 二ヶ年分 松田 武 千 代殿

以上

●創立二十五年記念館寄附金第二十二回報告

(六月二十日迄ノ分○印ノモノハ現金領收済ノ分)

一金參圓也 ○實達 佐 市殿

一金五拾四圓也 ○醫學科第一學年生 百八人

上田 誠一 新井 俊雄 石田 秀雄 南 德次 馬 詰 將

佐々木榮一 青木 操 加藤 美一 栗田 進 岡本俊次郎

田口 節朗 三輪 敏夫 川島 孝資 田幡 丈夫 瀨川 吉雄

橫澤三右衛門 石坂瀨三郎 青木 久男 毛呂 英夫 清水宗一郎

團野 輝雄 野松 義惠 石川 盈 生駒 馨雄 菱 哲

村上 準一 多川 幹 森 三郎 泉 與一 齊藤隆太郎

宮本 博人 岡田 藤郎 小林幸五郎 木下啓之助 伊藤 實

竹中 啓吉 酒井 熊治 齊藤 慎 加藤 信香 田中 英香

黑岩 諫人 太田 英 故田 賢意 四方 京一 渡邊 初男

三上 顯 武居 市重 北野 正儀 倉金 五郎 平井 隆

酒井代三男 三乘 實惠 柳生 一松 牧田 孝平 宮尾 眞吉

安原 俊 龜田神三寶 鈴木 晃 野口 廉一 尾關 一男

清水 助藏 堀 泰二 伊藤 治 兼子 正敏 高橋 幸三

島田 三郎 渡部 佳吉 西木 金裕 桐村 信孝 石井 清民

宮崎 洪 水野 善慶 水野 醇 佐野 敏 國島 政治

小林 俊 岡崎 正俊 高橋孝治郎 三井 義雄 武藤 讓

磯矢 泰一 福田 五次 日比 正志 稻坂 謙三 高島 德正

花岡 外喜 荒井 嘉市 酒井 良 衣川 穰 赤松 貞夫

上田 常吉 鈴木 壽六 中島 貫一 今村 茂之 茶谷 眞

西木 秀男 小栗 岐式 村田 三郎 藤井 節郎 的場 宗純

岩田 茂 越村 和一 瀧川 一忠 安達今朝衛 岡本 哲雄

堀越 龍一 長佐古友衛 丸 外毛二

計金五拾七圓也
累計金四千貳百九拾參圓九拾五錢也

▲第二十一同申込報告後現金領收ノ分

一金參圓也 井上 隼 雄殿 一金參圓也 高田 文 齊殿

一金五圓也 棚田 喜久雄殿 一金五圓也 村田 太次郎殿

一金五圓也 杉本 兵 太殿 一金參圓也(第二 井澤 篤 治殿

一金參圓也 細川 孝一殿 一金參圓也(同分) 青山 寛之殿

一金拾圓也 上池 林治郎殿 一金參圓也 片山 常三郎殿

一金貳圓也 中谷 正 範殿 一金五圓也 佐々木 靜殿